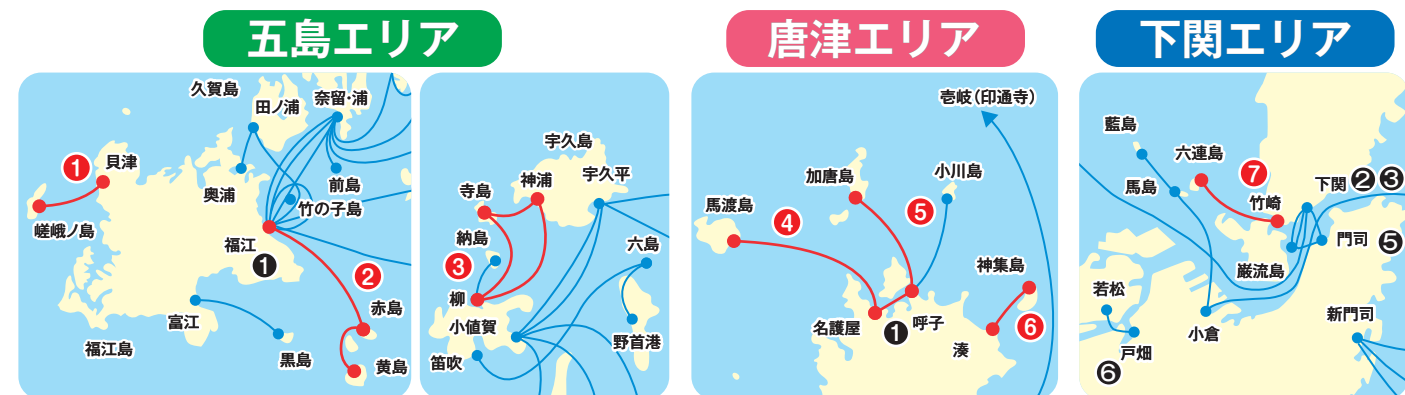
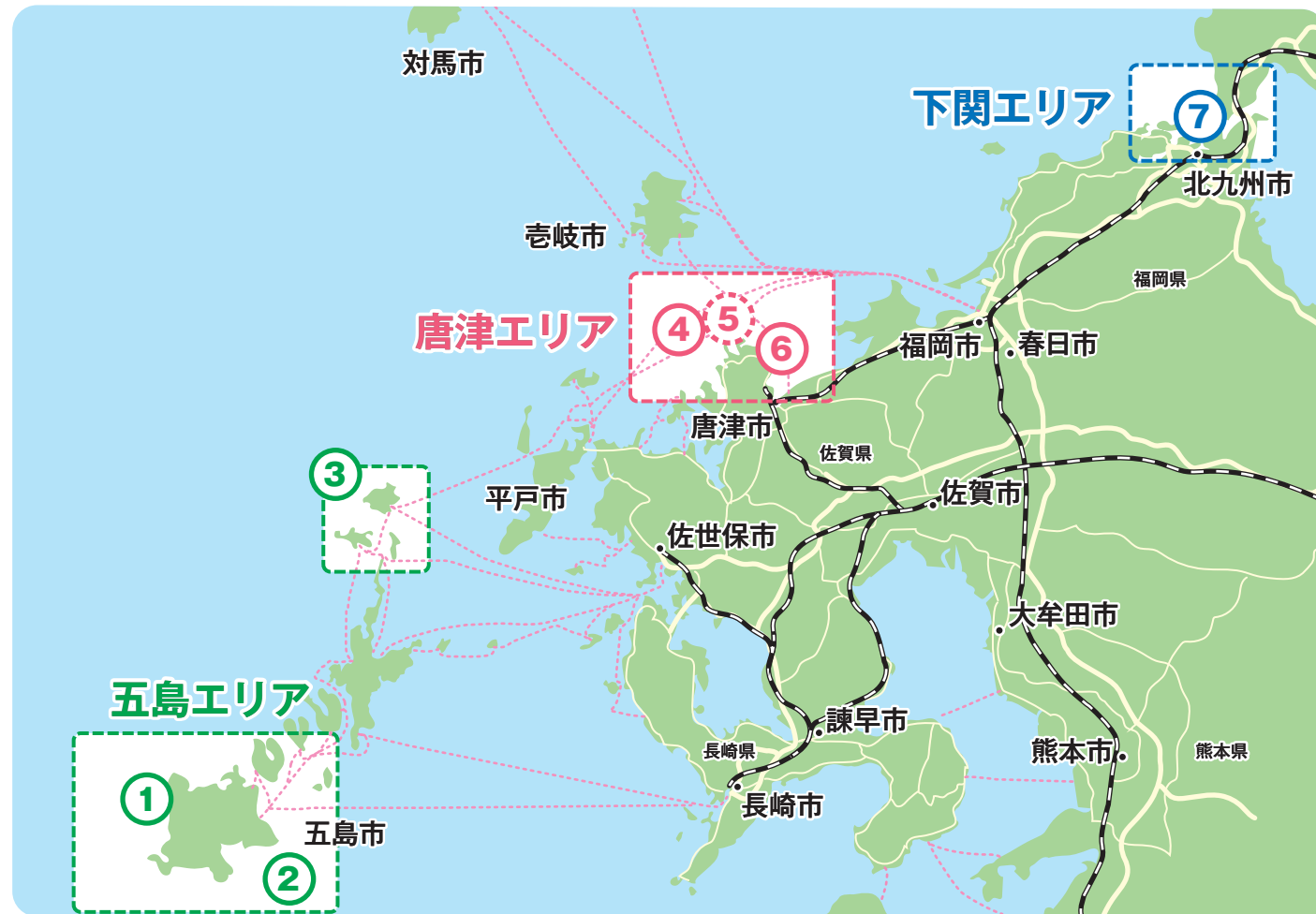


## 小型船舶に移行した航路マップ



①嵯峨島航路

②黄島航路

③寺島航路

④馬渡島航路

⑤加唐島航路

(令和8(2026)年度 4月就航予定)

⑥神集島航路

⑦六連島航路

※航路名は省略表記を使用しています。

離島航路の現状を踏まえた

小型船舶への転換に向けて

地元住民向け

お問い合わせ

公益財団法人 九州運輸振興センター

〒812-0013 福岡市博多区博多駅東3丁目10番17号  
TEL 092-451-0469 FAX 092-451-0474

本リーフレットは「離島航路の現状を踏まえた小型船舶への移行・転換の効果や課題に関する調査研究(令和6年度)」に基づき作成したものです。別に「航路事業者・自治体向けリーフレット向けリーフレット」があります。

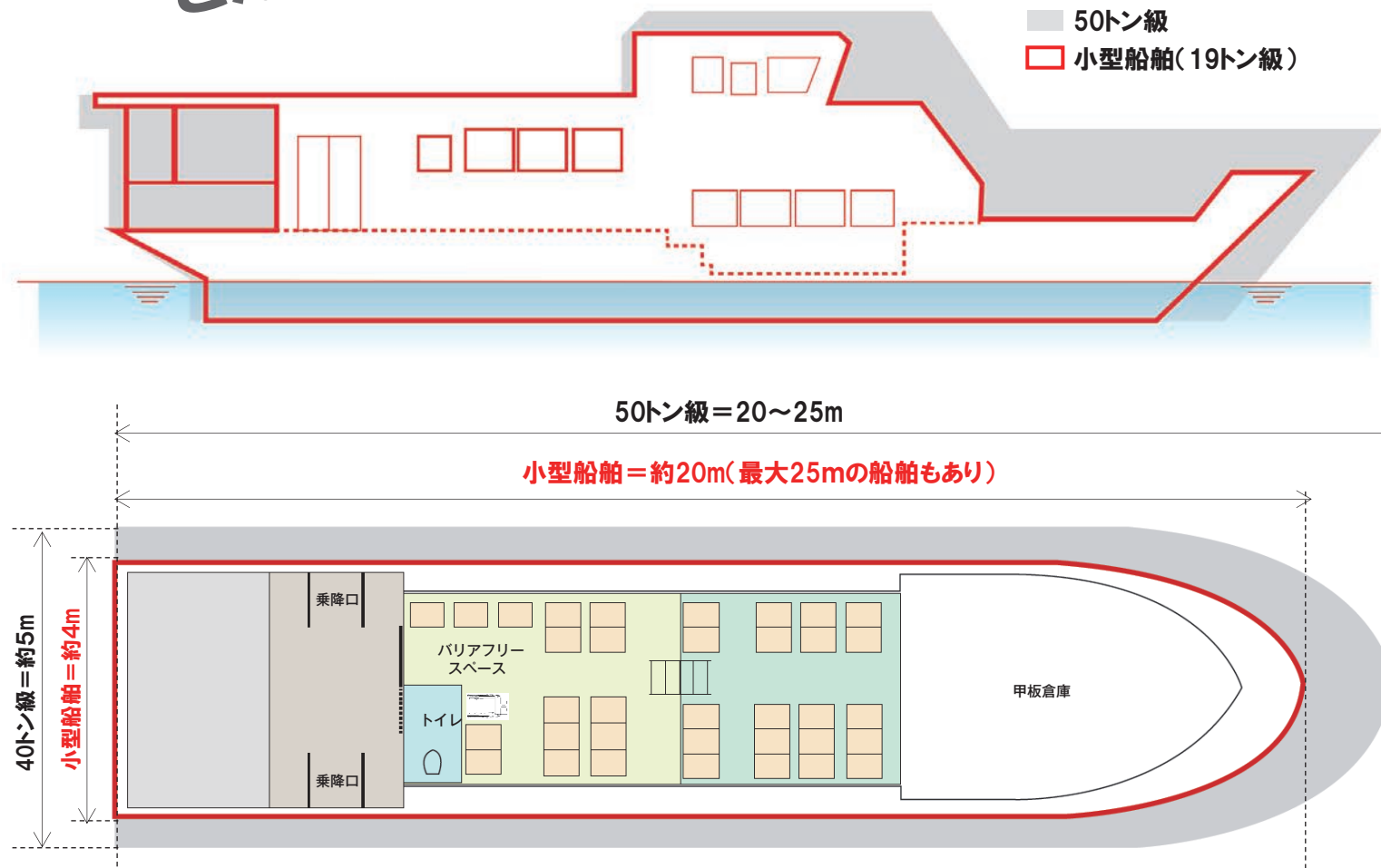
公益財団法人 九州運輸振興センター



# 小型船舶とは？～小型船舶の概要と特徴～

小型船舶って  
どんな船？

小型船舶とは20トン未満の船舶です。小型船舶のサイズは様々ですが、近年では長さ20m、幅4m程度が主流となっています。50トン前後の船に比べるとやや小さく感じますが、旅客定員も50～100人程度まで確保ができます。



※設計により船内のレイアウトや大きさは全て異なります。あくまで一例です。

Q：就航率が悪くなるのでは？

(答)大きく低下することはありません。

小型化により運航基準※が変わらない限り、就航率が大きく低下することはありません。ただし、波が高い時などでは揺れなどがやや大きくなる場合があります。

(事例)

大型船舶時  
87.4%



小型船舶転換後  
88.2%

※運航基準とは欠航や運航見合わせる条件を示したもの。風速や波の高さ、視界条件などがある

Q：定員数が少なくなるのでは？

(答)50～100名程度は十分に確保できます。

船内のレイアウト次第ですが、定員数は最大で100名程度を確保することも可能です。一般席、車いすスペース、平間(横になれる)など、利用状況に応じて検討できます。



ひじ掛け付きの一般席



寝転がれる平間スペース

## 九州管内における小型船舶への転換事例(国庫補助航路)

嵯峨島航路  
(長崎県五島市)  
平成23(2011)年



寺島航路  
(長崎県佐世保市)  
平成25(2013)年



神集島航路  
(佐賀県唐津市)  
平成27(2015)年



六連島航路  
(山口県下関市)  
令和元(2019)年



黄島航路  
(長崎県五島市)  
令和4(2022)年



馬渡島航路  
(佐賀県唐津市)  
令和6(2024)年



※航路名は省略表記を使用しています。

写真提供：(旧船) 運航事業者・(株) 沖新船舶工業、(新船) 九州旅客船協会連合会

Q：トイレや段差の問題は解消できないのでは？

(答) バリアフリーに対応した船内空間ができます。

車いすでも利用できる段差の無いバリアフリースペースを確保することが一般的です。トイレも水洗・ウォシュレットなど快適な利用ができるよう配慮されたものが設置されています。



車椅子がおけるバリアフリー席



段差がない乗降口



トイレ

写真：黄島航路(長崎県五島市)

Q：安全性が大型船に比べ劣るのでは？

(答) 安全対策が強化され、対策が徹底されています。

令和4年4月に発生した知床遊覧船事故を踏まえ、法定無線設備、非常用位置等発信装置、救命いかだの適用範囲の拡大、隔壁の水密化等が義務化されました。

(救命いかだ等のイメージ)



(注) 水面から乗り込み場所までの高さが約1.2m以上の場合はスライダを併せて搭載

(資料) 国土交通省

(無線のイメージ)



(隔壁の水密化イメージ)

